

令和 6 年 5 月 11 日現在

機関番号：35313

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02660

研究課題名（和文）イスラーム法にもとづいて生活する子育て家庭に対する保育者の支援課題と展望

研究課題名（英文）Challenges and prospects for supporting childcare workers working for families raising children under the Islamic law

研究代表者

中 典子 (naka, noriko)

中国学園大学・私立大学の部局等・教授（移行）

研究者番号：70369784

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、「イスラーム法にもとづいて生活する子育て家庭に対する保育者の支援課題と展望」を明らかにすることであった。そのために、国内外における「イスラーム法にもとづいて生活する子育て中の保護者が抱える生活のしづらさおよび必要としている配慮」、また、「保育者が保護者に必要と考える配慮」についてのインタビューやアンケートを実施した。その結果、「保護者は保育者にイスラームに基づく生活を理解してほしい」、「保育者は保護者がいうイスラームに基づく生活について理解を深めたい」と考えていることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、増加していくイスラーム教徒の子育て家庭に対する支援の充実をもたらすことになると同時に、多文化の子育て家庭が日本で安定した暮らしができるようになるために貢献できると考える。そして、地域におけるすべての子育て家庭が安定した暮らしができるようになるための貢献ができると考える。また、保育者とイスラーム教徒家庭の相互理解、イスラーム教徒家庭の保護者とそれ以外の保育・教育施設を利用している家庭の保護者の相互理解を深めることにもなる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the “challenges and prospects for supporting childcare workers working for families raising children under the Islamic law.” To this end, the author conducted interviews and questionnaires regarding the “difficulties in life and consideration required for parents raising children under the Islamic law” as well as “considerations that childcare workers consider necessary for parents.” From the results, it was revealed that “parents want childcare workers to understand their lifestyle that is based on Islam” and “childcare workers want to deepen their understanding of what parents mean by a lifestyle that is based on Islam.”

研究分野：子ども家庭福祉

キーワード：子育て支援 イスラーム 保育・幼児教育施設 多文化共生 保育者

1. 研究開始当初の背景

報告者らは、2019年度の科研申請をする数年前から「イスラーム教徒の子育て家庭」への「保育者の子育て支援」のあり方に関する先行研究を探していた。しかし、見出すことが難しかったため、保育者にとってイスラーム法にもとづく生活様式の理解とそれへの配慮の理解が難しいのではないかと考えた。それは、子育て支援の充実のために「保育所保育指針」等にある保育の質に影響するととらえることもできた。

そこで、報告者らは、保護者・保育者の両方の思いを把握してイスラーム法の理解を深めていく必要があると考えた。また、日本のイスラーム教徒人口の増加を考えるとイスラーム法のもとで生活している子育て家庭への支援のあり方についての理解は不可欠であるとも考えた。

以上の理由が、報告者らの「イスラーム法のもとで子育てしている保護者への支援を行うために必要な保育者の支援課題と展望」を研究しようとするに至った経緯である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「イスラーム法にもとづいて生活する子育て家庭に対する保育者の支援課題と展望」の明確化である。

3. 研究の方法

研究は、(1)文献研究、(2)インタビュー調査、(3)アンケート調査にもとづいて行った。

(1) 文献研究

文献研究では、「聖典クルアーン」と「ハディース」の内容よりイスラームについて、そして、子育て支援関連の文献を保育学等の関連分野から網羅的に収集して日本における子育て支援についての理解を深めることから始めた。

(2) インタビュー調査

インタビュー調査では、「イスラーム教徒の子育て家庭」の保護者が保育者に対して求める配慮を明らかにすることを目的に、16名の保護者にインタビューをし、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)によって検討した。

(3) アンケート調査

インタビュー調査をもとに作成したアンケート項目をもとに、保育者対象にアンケートを実施し、回答をもとに分析を行った。

4. 研究成果

(1) 「イスラーム教徒の子育て家庭」の保護者が保育者に対して求める配慮

「イスラーム教徒の子育て家庭」の保護者が保育者に対して求める配慮を明らかにするために、16名の保護者にインタビューをし、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)によって検討した。結果、19概念と3カテゴリーが生成できた。ここから、保護者が人間はアッラーのもとにあるという考え方のもとで子どもの意向を尊重しつつ日本の習慣に合わせていること、また、家庭でイスラーム教育はしているが日本の保育・教育施設でイスラーム教育をしているわけではないので限界を感じていること、が明らかになった。よって、保護者は、保育者に子どものイスラーム教育を行う家庭方針の理解と尊重を求めていると考察できた。

<(1)の引用文献> 中典子・小宅理沙・安田誠人・上續宏道『『イスラーム教徒の子育て家庭』の保護者が保育者に求める配慮』『福祉図書文献研究』第20号、2021年、pp.41-51

(2) 「イスラーム教徒の子育て家庭における保護者の思い」と保育者の理解度

多くの保育者が「イスラーム教徒の子育て家庭の思い」を「知らなかった」と回答していた。そこから、「保護者支援の充実に必要なこと」は、保育者がイスラーム教徒の子育て家庭における保護者の「保育・幼児教育施設の方針を尊重したい」「イスラーム教徒としての生活を尊重したい」「イスラーム教徒の義務を理解して欲しい」「イスラーム教徒の習慣を理解して欲しい」「ラマダーン月の断食を理解して欲しい」という思いを理解することと考察することができた。わが

国において多文化共生が広がっていく中で、保育者は「イスラーム教徒の子育て家庭」の子どもの保育と保護者の子育て支援を担当したとき、それらの理解にもとづいて保育者としてできることについて考えていく必要があると考察できた。

< (2) の引用文献 > 中典子・安田誠人・小宅理沙・上續宏道「『イスラーム教徒の子育て家庭における保護者の思い』と保育者の理解度」『福祉図書文献研究』第 21 号、2022 年、pp.29-38

(3) 「イスラーム教徒の子育て家庭」に対して保育者ができること

「イスラーム教徒の子育て家庭」に対して保育者ができることを検討することで「イスラーム教徒の子育て家庭」に対して保育者ができることは、家庭の方針を理解すること、イスラームについて理解すること、行事の意味について説明できることが把握できた。これらのことから、保育者は、保護者やインターネット等から情報収集する、勉強会を探して参加するなどして、理解を深めていく必要があると考察できた。

< (3) の引用文献 > 安田誠人・中典子・小宅理沙・上續宏道「『イスラーム教徒の子育て家庭』に対して保育者ができること」『大谷大学乳幼児教育学会研究紀要』第 3 号、2023 年、pp.21-31

(4) イスラーム教徒の子育て家庭への支援に求められること

保育者による「イスラーム教徒の保護者への支援」と彼らの「イスラーム教徒の保護者の思い理解度」の関連を明らかにし、保育者のどのような理解がイスラーム教徒の保護者に対する支援の充実につながるかを検討するために、保育者からのアンケートの回答をもとに行った因子分析の結果にもとづいて重回帰分析を行った。それにより、「保育者ができること」と「保育者による保護者の思い理解度」の関連について検討した。その結果、「保育者ができること」を増やしていくには、「イスラーム教徒としての生活を尊重したい」という保護者の思いを理解することが必要であると明らかにできた。このことから、保育者がイスラームについて学ぶ必要があるといえる。また、保育者を目指す者に対しては、イスラーム教徒への配慮に関する手引きやテキスト等を作成していく必要があると考察できた。

< (4) の引用文献 > 中典子・安田誠人・上續宏道・小宅理沙「イスラーム教徒の子育て家庭への支援に求められること 保育者による『支援』と『保護者理解度』との関連より」『人間学研究』第 21 号、2023 年、pp.37-43

(5) イスラーム教徒家庭の子ども・保護者への支援で保育者が必要と考えること

「イスラーム教徒家庭の子ども・保護者への支援で保育者が必要と考えること」を明らかにするために、保育者への自由記述アンケートより、KJ 法にもとづいて分類整理した。その結果、次のことが明らかになった。保育者は、「母語・文化・生活習慣等の違いにより、意思疎通に時間がかかる」と考えている。そのために、彼らは、「家庭の方針を尊重する」「コミュニケーションが深まるようにする」「保護者と情報共有することとし、信頼関係構築に努めている。また、「保育・幼児教育施設の方針を伝える」「可能な配慮と難しい配慮があることを伝える」「当該家庭と他の家庭の関係調整をする」「子ども間の相互理解を深める」「保育者間で情報共有する」「他機関と連携する」「多文化理解が深まる環境をつくる」ことに努めている。これらの取り組みが充実するために、「イスラーム」「子どもの最善の利益」「日本の文化」を理解することに努めている。

以上より、保育者がイスラーム教徒家庭の子ども・保護者の支援をする際には、コミュニケーションを深めること、そして、情報収集することが必要であると考察できた。

< (5) の引用文献 > 中典子・安田誠人・小宅理沙・上續宏道「イスラーム教徒家庭の子ども・保護者への支援で保育者が必要と考えること 保育者の自由記述にもとづいて」『福祉図書文献研究』第 22 号、2023 年、pp.3-12

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 中 典子 安田 誠人 小宅 理沙 上續 宏道	4. 巻 21
2. 論文標題 「イスラーム教徒の子育て家庭における保護者の思い」と保育者の理解度	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福祉図書文献研究	6. 最初と最後の頁 29-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安田 誠人 中 典子 小宅 理沙 上續 宏道	4. 巻 3
2. 論文標題 「イスラーム教徒の子育て家庭」に対して保育者ができること	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大谷大学乳幼児教育学会研究紀要	6. 最初と最後の頁 21-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中 典子 小宅 理沙 安田 誠人 上續 宏道	4. 巻 20
2. 論文標題 「イスラーム教徒の子育て家庭」の保護者が保育者に求める配慮	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福祉図書文献研究	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中 典子 安田 誠人 上續 宏道 小宅 理沙	4. 巻 21
2. 論文標題 イスラーム教徒の子育て家庭への支援に求められること 保育者による『支援』と『保護者理解度』との 関連より	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人間学研究	6. 最初と最後の頁 37-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中 典子 安田 誠人 小宅 理沙 上續 宏道	4. 巻 22
2. 論文標題 イスラーム教徒家庭の子ども・保護者への支援で保育者が必要と考えること 保育者の自由記述にもとづいて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 福祉図書文献研究	6. 最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計3件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 中 典子 小宅 理沙 上續 宏道 安田 誠人
2. 発表標題 「保育者が保護者に対してできること」と「保護者の思い理解度」の関連～イスラーム教徒の子育て家庭の保護者に対する支援に求められること～
3. 学会等名 日本ヒューマンリレーション研究学会第3回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中 典子 安田 誠人 小宅 理沙 上續 宏道
2. 発表標題 保育・教育者を目指す者が多文化家庭の子どもと保護者対応のために学ぶべきこと
3. 学会等名 日本ヒューマンリレーション研究学会第2回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中 典子 小宅 理沙 安田 誠人 上續 宏道
2. 発表標題 外国につながる子どもとその家庭への支援課題と展望
3. 学会等名 日本福祉図書文献学会第22回全国大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	安田 誠人 (yasuda yoshito) (00342105)	大谷大学・教育学部・教授 (34301)	
研究分担者	上續 宏道 (uetsugu hiromichi) (40331657)	四天王寺大学・人文社会学部・教授 (34420)	
研究分担者	小宅 理沙 (koyake risa) (50523536)	同志社女子大学・現代社会学部・助教 (34311)	2019年4月1日から2022年5月17日まで

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------